



小形 明誠

代表取締役社長

日東工器株式会社

【会社概要】

本社所在地：東京都大田区仲池上2-9-4

創業：1956年

資本金：18億5,032万円

従業員数：単体471名 連結1,025名
(2021年9月末現在)

おもな事業内容：流体迅速継手、機械工具、ポンプ製品、ドアクローザなどの製造・販売

URL：https://www.nitto-kohki.co.jp

技術で、人を想うモノづくり

社会に役立つものを

本社社屋は低層のガラス張り、緑に囲まれて周りの住宅街にも無理なく溶け込んだ外観である。

玄関を入ると吹き抜けになっており、ショールームには事業ごとにおもな製品が展示されている。

「迅速流体継手『カプラ』、機械工具のアトラシリーズ、ポンプ、ドアクローザなどが主力製品です」

そのほかにもショールームの真ん中にはさまざまな社会貢献で表彰された多くの感謝状が、額に入れて展示されていた。

今回は、池上本門寺近く、第二京浜沿いに本社を構えている大田区仲池上の日東工器㈱の小形明誠代表取締役社長を訪ね、お話を伺った。

社会への貢献、従業員の幸福、会社の発展

「最初はエアマイクロメーターを作っていました。メーター内の配管から空気を除去してオイルを充てんします。その際に空気を除去した状態を保ちながら自動開閉する継手が必要だったことが、迅速流体継手『カプラ』を開発するきっかけになりました」

1956年に故 御器谷俊雄会長が夫人と一緒に大田区久が原の自宅の2階で会社を設立した。創業当初、製品が売れずにリヤカーに積んで売り歩き、支払いなどで大変なときに定めた経営方針の1つ目は「社会への貢献」、2つ目に「従業員の幸福」、そして最後に「会社の発展」であった。

流体迅速継手「カプラ」

いまや日東工器の「カプラ」は日本で7割くらいのシェアではないかと日東工器では推測している。

燃料電池自動車の水素充てん口の継手にも日東工器の「HHVカプラ」が採用されている。大気圧の700倍の圧力に耐える継手はトヨタ自動車の燃料電池自動車「MIRAI」でも採用されている。

「技術だけでなく、品質や安全面にも力を入れていますので、一度使っていただくと、日東工器のカプラの良さをわかっていただけます」

日東工器は現在、長年の実績と信頼の蓄積のおかげで無借金経営である。

社訓に「創意を発揚し技術を蓄積しよう 鋭気を涵養し活力を蓄積しよう 誠意を尽し信用を蓄積しよう」とあり、これらの蓄積が実を結んだと言えそうである。

「私は3年半前に御器谷会長の熱意に感服して日東工器に来ました」と小形社長。

以前は商社マンだった小形社長は、日東工器の名を聞いたことがなかった。しかし、65年前まだ創業したばかりで経営が苦しかった時代にこのような社訓をつくった創業者の思いに深く共感して日東工器に移ることに決めた。

機械工具・ドアクローザ

日東工器では、機械工具やドアクローザなども製造している。

機械工具では、鋼材の穴あけのアトラシリーズ、切断、研磨、剥離などの金属加工用のハンドツール、ねじ締めによる組み立てに使用する電動ドライバ「デルボ」などがある。近年では、ハンドツールをロボットに搭載して、作業を自動化できる製品の開発・販売に力を入れている。

ドアクローザは、オフィス、商業施設等の扉の蝶番に使われるオートヒンジである。ヒンジ内部のスプリングと油圧の作用で、扉を自動的に静かに閉めることが可能になっている。

軽量かつ乾電池で動く「キュータム」

「当社の携帯型吸引器『キュータム』は医療従事者からの依頼を受けて開発しました」

普通の吸引器は5〜6kgあり、訪問医療や痰の吸引を必要とする子どもの外出に付き添う母親が持ち歩くには負担が大きい。依頼を受けて日東工器のポンプ技術を用いて開発されたのが、軽量で乾電池とACアダプタの2電源対応の「キュータム」である。

2018年の北海道胆振東部地震のときに、停電していた札幌や苫小牧の病院から「キュータム」を寄贈してほしいとの依頼があった。社員4人が80台の「キュータム」を持ち、単三乾電池1,000本以上を買い集めて飛行機で北海道に運んだ。当時、乾電池で動く吸引器は日東工器のものだけであった。

今回の新型コロナウイルス感染症でも、第一波のときに関東地区の20ほどの病院から「キュータム」寄贈の依頼があり、最終的には400台を寄贈した。



重さ1.2kgの携帯型吸引器キュータム

マッサージ器の「メドマー」

「日東工器のポンプの技術を応用してつくられたのが、家庭用エアマッサージ器の「メドマー」です」

リンパ腺切除後のがん患者用にむくみ改善のためのマッサージ器として「メドマー」は開発された。

それがここ2〜3年、スポーツ選手の試合後の疲労回復のマッサージ用として使われるようになってきた。ラグビーやサッカーJリーグ、プロ野球のチームなどでも使われている。ショールームに飾られたユニホームは、「メドマー」を愛用するラグビーチームやバスケットボールチームから贈られたものだ。

地域にも貢献

「東京商工会議所大田支部で副会長をしているほか、仲池上商工業振興会のなかでは比較的大きな企業

なので頼まれごとをされることがあります」

日東工器は地元信用金庫の依頼を受け、新型コロナウイルス感染が拡大し、受注が減って困っている地元企業と面談した。日東工器の品質の基準を満たせる部品をつくれるかどうかを確認のうえ、図面を渡して仕事を発注した。

また、新型コロナウイルスワクチンの職域接種の依頼を受け、近隣の会社100社1,100人の接種を実施した。

社員を大切にしたい

「私が社長になってから、年に1回は各拠点を回ってなるべく社員全員と話すようにしています」と小形社長。2021年はコロナ禍でできなかったが、東京本社では毎月誕生会と称して社員との昼食会を開催している。その場で面白いアイデアが出たらすぐに総務本部長に伝えて検討してもらっている。

名古屋と大阪の若手社員からは、会社支給の靴ではなく、自分で履きやすい靴を購入して仕事で履いているとの話を聞いて早速総務本部長に話した。少々高額ではあったが、工場と営業の全社員に履きやすい靴を会社から支給することにした。

また、西日本支社の営業社員が山形や白河の工場に行ったことがないと言うので、それはいけないと山形の工場との懇親会を設定した。これが好評で白河や栃木の工場からも毎年他部門と懇親会をやりたいとの要望があった。

小形社長自身も社員との昼食会で、「社長室ってどんなところですか」と聞かれ、社員に見せたところ喜んでもらったので、「これで喜んでもらえるんだったらいつでも見せるよ」と言っている。

日東工器のこれから

「いまのところ日東工器の海外売上高比率は低いのですが、今後は海外での売上を伸ばしていきたいです」

以前、海外で日東工器の製品の苦情を言われたことがあり、調べてみたら偽物だったことがある。小形社長は、海外で偽物が出回らないように知財や法務に力を入れたいと考えている。現在、弁護士資格をもつ社員に法務部長を務めてもらっているほか、法務部に人を厚く配置している。

「環境やSDGsにも配慮し、欧州の規格にも適合した製品づくりをしていきたいですね」

小形社長は常日頃から社員には、規格についてだけでなく社会の変化を読んでニーズを先取りできるような製品を開発してほしいと言っている。

「うちの社員のいいところは、意欲的に真面目に取り組むところです」と小形社長。

社員とのコミュニケーションを大切にしながら、社員のやる気に答えていきたいという小形社長のひたむきな取り組みはこれからも続く。